

植え替えよう!

適期/10~11月

ウツボカズラ以外は、夏の暑さに弱い種類が多いので、植え替えは10月以降に行います。それぞれの植え替え時期は次ページのカレンダーを参照してください。今回は例にハエトリグサを使いますが、基本的には、ほかの食虫植物と共通の作業です。

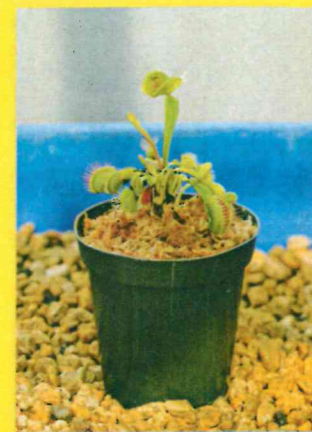
ポイント1/用土は水ゴケのみ

用土は、水はけと保水性がよい水ゴケが適します。食虫植物の多くは、湿地帯か、やせた土地に自生しています。わずかな養分の土地で育つので、肥料は必要ありません。

ポイント2/1年に1回は植え替えを

水ゴケは常に湿らせておき、水切れさせないようにします。1年ほどたつと、水ゴケは黒ずんで傷んでくるので、必ず植え替えを行きましょう。

[用意するもの]



Step 2
根を傷めないように、力を入れずに水ゴケをほぐしていく。



Step 1
ポットの底に指を入れて押し上げ、ポットから株を抜く。



1 購入したハエトリグサの株(写真は2号ポット)
2 水ゴケ(あらかじめ水を含ませておく)
3 植え替え用の鉢(写真は2.5号鉢)
4 土入れ
5 鉢底石



Step 6
指ですき間に水ゴケを詰めていく。きつく詰めず、株がぐらつかない程度に。



Step 5
鉢に鉢底石を入れる。



Step 4
株の根を束ねて、水ゴケを巻く。巻きつける大きさは鉢の内径程度。



Step 3
ほぐし終えた状態。

長もちさせるコツ

湿度を保って管理しよう

食虫植物は湿度を保つことが大切。植え替え後は、鉢に日向土の中粒か、細粒の砂を湿らせて敷き、その上に鉢を置く。真夏の間は半日陰に置き、それ以外は、日当たりと風通しのよい場所で管理する。

夏休み特別企画

「食虫植物を育てよう!」

Carnivorous Plants



久山 敦 Atsushi Kuyama

園芸研究家/大阪市の植物園「咲くやこの花館」館長。植物を求めて訪れた国は50か国以上に及ぶ。「食虫植物は、キレイな花を咲かせる種類も多いです。この不思議な植物の世界に触れてみてください」。

7~8月は、園芸店やホームセンターで食虫植物が手に入りやすい時期です。

ここでは、鉢で育てやすい食虫植物を4つにしぼって解説します。

*捕虫期は4つの植物とも、種類によるがおよそ5~10月ごろまで。

育てるならこの4つ!

くると巻いて虫を獲る

モウセンゴケの仲間

とりもち型
葉の腺毛で虫を捕まえ、巻き込むようにして虫の養分を吸収する。



モウセンゴケ科/原産地は日本ほか世界各地/多年草。冬越し可。寒さに弱い。花は茎を伸ばして、高い位置に咲き、受粉用の虫は捕まえない。



24時間ほどかけて、虫に葉を巻きつけ、2日間かけて虫の養分を吸収する。

ネバネバで虫を逃がさない

ムシトリスミレの仲間

とりもち型
葉の腺毛から粘液を出し、そこにとまった虫を捕まえる。



タヌキモ科/日本、ヨーロッパ、北アメリカなど原産/多年草。冬越し可。寒さに強い、湿度が必要。開花は早春から5月。スミレに似た花が咲く。



モウセンゴケと同様、葉の表面から消化酵素を含む粘液を出し虫の養分を吸収。

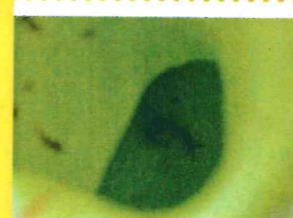
蜜でおびきよせる

ウツボカズラの仲間

落とし穴型
つぼ状の袋から出る蜜で虫を誘い、袋に落ちて消化する。



ウツボカズラ科/熱帯アジア原産/多年草。種類によって冬越し可。寒さに弱く湿度が必要。葉先から伸びたつるが袋になる。ここに消化液をため、落ちた虫を吸収。



袋の上部はロウを塗ったようにつるつるで、落ちた虫は這い上がれない。

一瞬で虫をキャッチ!

ハエトリグサ

二枚貝式わな型
二枚合わせた貝のように葉で虫をはさんで養分を吸収。



モウセンゴケ科/北アメリカ原産/多年草。寒さに強く、暑さに比較的強い。



葉の内側に感覚毛があり、そこで虫を確認して閉じる。1週間程度で、虫の養分を吸収する。